

四月一日

流石に昨日はGスタジオの構想を少し計り考えただけで終わった。TOKYOの気候は本当に穏やかだな。炎天の太陽と極寒から身を守る必要がほとんどない。朝地下室ミーティング。四月の仕事の確認のみ。午後大学、留守中の連絡事項チェック。四月のN棟ミーティング。博士課程の外国人学生達から私の59才誕生日の祝いのシャンペーンを一杯ごち走になる。S棟でも祝を受ける。二〇時過世田谷村に戻る。

四月二日

小雨。Gスタジオに関する構想を少しづつ進めているが、困難が大きそうな事が解ってきた。しかし、何はともあれ船は出てしまったのだから航海を成り立たせるしか無い。楽天的に行くのを演技し切る事が大事だな。かつて津野海太郎に指摘された様に認識は暗いが行動は楽天的であるらしいのを信じて再び意識して心掛けよう。十三時J・ライター来室。今日明日のスケジュール調整。西谷主任へあいさつ。Gスタジオ実見。十五時ライター本部へ。利根町佐藤さんと会う。五月六日に取手までうかがう事を約す。アツという間に一日が過ぎた。気を付けなくては。

四月三日

今日は学科新入生諸君へのあいさつをしなくてはならない。何

を話せば良いか。朝京王線桜上水で内田祥哉先生にお目にかかる。何年振りだろうか。明大前まで短い時間だったがお話しをうかがう。内田先生は私の顔を見ると必ず左官の話しをされるが、そういう印象記憶なんだろうな。十時新入生諸君に小スピーチ。今朝の新聞にパナホームの新商品「コンバージョン」が一面広告で出ていた。いかにも日本の製造業らしい表面だけのコンセプトであきれ返った。何をナショナルは考えているんだろう。午後雑務。スタジオGは大体スペースの全体が浮かんできた。広くて良い。これを生かせなければ早稲田は駄目だ。しかし、しかしなのである、そこに生棲する院生のいかにも甘いサークル風なのが絶望的にも思う。ライターもそれにすでに気付いている。日本全体が幼児退行してるんじゃないかな。

四月四日

朝地下室ミーティング。大学へ。十四時より十九時前まで三本インタビュー。愛想の悪い私が露出するからインタビューはそれを押え込むのに力が要る。

四月五日

朝地下室ミーティング。Gスタジオに関して。十五時過大学へ。夕方会食。研究室が置かれている経済的状況は厳しい。マ、切り抜けるだろうが、ジャリ共にはこの厳しさは伝えられない。

四月七日

朝地下室ミーティング。十三時大学。李祖原と再会。これでJ・ライターと三名、Gスタジオのメンバーがそろった。何をどのようにするのかを十六時過まで議論。李祖原が加わった事で

テンションが高まっている。「モヴァイル」についての考えを次週述べ合う事にする。

夜、メモの原稿を書く。

四月八日

なんだか疲れが恒常的になっていて思考に弾みがつかない。地下に降りてメモを記す。プロダクトをすすめるのに何か決め手の方法が欠けているな。スタッフの力もそろそろ生かさなければならぬが頼りになって欲しいものだ。十三時大学CYLEEとグライターと小ミーティング。十四時過バスで代々木GAへ。二川幸夫、由夫親子と会う。スタジオG開設のあいさつ。十七時高田馬場でビールを飲んで帰る。

四月九日

今日はゆっくり世田谷村で過すつもり。手紙を書いたり、考えなければならぬ事も山積している。桜も散って淡々たる春になった。

四月十日

十時稲田堤第一厚生館。途中星の子愛児園に寄ってみる。光の中で子供達が元気に遊んでいた。バグダッド崩壊の報が伝えられているが、イラク戦争の是非を論じる前に、戦争の現場、つまり人殺しの現場をリビングルームのTVで視ている我々の現実の異常さを先ず考えてみる必要があるのではないか。近藤理事長と久し振りに会った。お元気そうだった。いつも若い人に囲まれて暮らしているからだろう。スペイン、フランスに保母さん達と行くそうでバルセロナの情報を差し上げようかな。十一時半大学。